

序章 政治・経済の動向と労働問題の焦点

特集 労働時間法制の改編と運用の実態

第1部 労働経済と労働者生活

- 1 労働経済の動向
- 2 労働者の生活と意識
- 3 女性労働
- 4 外国人労働者
- 5 労働災害・職業病

第2部 経営労務と労使関係

- 1 経営者団体の動向
- 2 経営労務の動向
- 3 主要産業の動向

第3部 労働組合の組織と運動

- 1 労働組合の組織状況と労働争議
- 2 労働組合全国組織の動向
- 3 賃金・時短闘争
- 4 政策・制度にかかわる運動
- 5 単産単組の運動事例
- 6 国際労働組合運動

第4部 労働組合と政治・社会運動

- 1 社会保障運動
- 2 労働者福祉運動
- 3 社会運動の状況
- 4 政党の動向

第5部 労働・社会政策

- 1 労働政策
- 2 賃金政策
- 3 社会保障政策
- 4 労働判例・労働委員会命令
- 5 ILO

付録

主要な労働組合の現状

労働組合名簿

社会・労働運動年表(2001年1月1日～12月31日)

○『大原社会問題研究所雑誌』 523号(2002年6月号)PDF公開(6月25日)

<http://oisr.org/oz/523/index.html>

【特集】日本の社会保障: 動向と現在(1)

社会保障法原理後退の過程と現状および課題 高藤 昭

日本社会保障と「財政調整」システム 玉井金五

■論文

「家族ぐるみ」闘争における消費活動をめぐる攻防——日鋼室蘭争議(1954年)を事例として 中村広伸

■証言: 日本の社会運動

救援運動の再建と政治犯の釈放(3・完)——梨木作次郎 氏に聞く

■書評と紹介

天野寛子 著「戦後日本の女性農業者の地位——男女平等の生活文化の創造へ」吉田義明

法政大学大原社会問題研究所編／梅田俊英 著「ポスターの社会史——大原社研コレクション」小沢節子

水島治郎 著「戦後オランダの政治構造——ネオ・コーポラティズムと所得政策」佐伯哲朗

所報:2002年2月

【その他の更新情報】

○最新の更新履歴

<http://oisr.org/notice/whatsnew.html>

○2002年度の更新履歴

<http://oisr.org/notice/renewal02.html>

▽△▽△▽△▽△▽△▽△▽ O I S R コ ラ ム △▽△▽△▽△▽△▽△▽△▽△▽

ハンゲルサイトを日本語で読む(2)

前回、韓日自動翻訳サイトの「チングー(友達)」<http://chingu.friend.jp/> と「All Korea」<http://www.allkorea.co.jp/cgi-bin/allkorea.front> をご紹介したところ、ARGの岡本真さんから、他にも韓日自動翻訳サイトがあることを教えていただきました。今回は、まずはその追加分をご紹介すると同時に、前回のコメントについてもいづらか訂正したいと思います。

追加のひとつは、ご存じ検索サイト《goo》の「翻訳実験」<http://jupiter.nttrd.com/> です。ここはその名称にもあるように、まだ「実験」段階のようですが、韓国語・英語・中国語のサイトを日本語に、日本語サイトを同じく上記3カ国語に翻訳する双方向翻訳を無料で提供しています。日本語で件名を入れての翻訳検索、URLを入れてのWebページ翻訳と枠内にテキスト(500字まで)をいれると翻訳をしてくれるテキスト翻訳の3種です。日韓、韓日の自動翻訳はアメリカAmikai社のシステム、中国語の翻訳エンジンは高電社のものを利用しているとのこと。

つぎは、NTT系のプロバイダー《OCN》の「翻訳サービス」です。

<http://www.ocn.ne.jp/translation/>

ここでは、ウェブページ翻訳とテキスト翻訳が、韓日、日韓、英日、日英の双方向で提供されています。ここもgoo同様、アメリカAmikai社のシステムを利用しています。同じNTT系ですから、内容的にはgooと変わらないようですが、ただこちらは翻訳検索がなく、中国語はあつかっていません。

第3は、《NAVER Japan》の「韓国翻訳検索」<http://honyaku.naver.co.jp/>で、これは前回ご紹介したチングーを運営している韓国系の検索サイトです。ここはURLをいれて目的のサイトを日本語で表示するWeb翻訳と、日本語で検索語を入れてハンゲルのサイトを探すことができます。このリンクをたどっている限り、すべて日本語に翻訳されて表示されます。前回は、NAVERの自動翻訳の窓口は「チングー」だと思ってこちらを紹介したのですが、「チングー」の方は、主として自動翻訳によるチャットと掲示板サイトに力をいれているようです。

なお、このNAVERの翻訳システムは、松下系のプロバイダー《hi-ho》の検索サービス「hi-hoサーチ」にも採用されています。<http://search.hi-ho.ne.jp/honyaku/>

最後にもうひとつ、これは私がその後発見したのですが、「こりゃ英和」など自動翻訳ソフトを制作している会社《LogoVista》もオンラインの翻訳サービスを提供しています。

<http://www.logovista.co.jp/trans/>

テキスト翻訳は、なんと英語、日本語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、ポルトガル語、スペイン語、韓国語の8カ国語の多言語翻訳です。ウェブ翻訳は日英、英日の翻訳のみです。

じつは、前回《NAVER Japan》について「性能的にはAll Koreaに一步譲る感」があると述べました。しかし、これはいささか性急に結論を出してしまったようです。今回、NAVER Japanの「韓国翻訳検索」をすこし時間をかけて使ってみたところ、けっこう使いやすく、日本語の質もそれほど悪くはないと感じました。

ほんとうは、あれこれ試してみた結果についてもご紹介する方が良いのですが、長くなりますので、今の段階での判断をひとこと述べるにとどめます。

前回はAll Koreaのテキスト翻訳をお勧めしたのですが、私のように、まったくハンゲルを

知らない場合は、むしろ翻訳検索の方が使いやすいと感じました。もちろん、文字数の多いファイルはテキスト翻訳に頼るほかありませんが、ふつうのサイトを見てまわるには、日本語のキーワードを入れ、出てきた結果をたどるだけで、ハンゲルサイトを日本語で読める「翻訳検索」が便利です。なにしろ私にとっては意味不明の記号の集まりにすぎなかったハンゲル・サイトがつぎつぎと日本語で現れる来るのは、感動ものです。ところどころ意味不明の言葉が出てきますが、これもパズル感覚で推理すると、けっこう楽しめます。なんでこんなところに「犬」が出てくるのだと思い、つぎの瞬間、これは「ケン」つまり「件」に相違ないと発見するといった具合です。もし、キーワードを入れても、目指すサイトが見つからない場合は、《韓国NAVER》や《Yahoo Korea》などディレクトリー型の検索サイトを見つけ、そのカテゴリー別リストをたどると、比較的簡単に自分の関心あるテーマに関するハンゲルサイトを探し出すことができます。知らない言葉の海外サイトを自国語でネットサーフィンできる時代が近いわけで、こうなると我々の発信方法や内容も、自動翻訳を念頭において検討する必要があるのではないかと、あらためて考えさせられています。

(にむら かずお・名誉研究員)

購読を中止するときはwebmaster@oisr.orgまでご連絡ください。
OISR.ORGでは皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。

法政大学大原社会問題研究所 (<http://oisr.org>)
編集担当者:鈴木 玲
〒194-0298 東京都町田市相原町4342
TEL 042-783-2307 FAX 042-783-2311

OISR-WATCH

法政大学大原社会問題研究所 (<http://oisr.org>)
